

## 第4回

賃貸仲介業界の「常識」は  
他業界では「非常識」

た今こそ、業者訪問営業の効果が上がる時期だとポジティブに考えることができます。

そこで今回は、仲介会社への訪問営業をより実のあるものにすべく、「仲介会社スタッフ」とその先にいる「見込み入居者」の心理を捉えた戦略をお話ししましょう。

「仲介会社スタッフは  
家電量販店スタッフと同じ?」

賃貸物件を他の商材に置き換えて考えてみましょう。例えば、「オーナー=家電メーカー」、「入居者=購入者」に置き換えてみると、賃貸仲介会社は家電量販店（ビックカメラやヤマダ電機）や大塚商会といった「販売代理店」に位置付けられます。

しかしながら、仲介会社は本来販売代理店に位置付けられる会社の営業担当者なのに、見たこともない商品を販売していません。一度も内見をしたことのないお部屋（商品）をカウンター営業（販売）しているのです。

他の商材では販売代理店向けにメーカーが研修を実施したり、商品知識を深める時間をつくっています。「メーカー=物件オーナー」だとすると、仲介会社がともう一つ気づくことがあります。家電量販店のテレビコマニにいるスタッフに商品の説明を求めたら、各メーカーの特徴（解像度や色、オプション機能）をちょっと調子に乗りすぎるように教えてくれます。このような接客を受けたことのある方は少なくないでしょう。商品の競合優位性をきちんと把握しているからこそできる対応です。

これを賃貸物件に置き換えてみれば、カウンター営業の時点で、あなたの物件と抱き合わせで内見する可能性のある物件とを比較された時に、あなたの物件にしかない設備や特性を伝えてもらわなければならないのと同じことです。しかしながら、仲介の現場ではあなたの物件の詳細な情報を把握していないため、抱き合せの競合物件と比較した上で優位性（セールスポイント）をカウンター営業時代に説いてもらえる機会は非常に少ないというわけです。だからこそ仲介営業スタッフは「と

ナード」とすると、仲介会社がパンフレットがなかつたら怒りませんか？」

「240万円の車を購入するのにパンフレットがなかつたら怒りませんか？」

りあえず内見に行つてみましょう」という接客にならざるを得ないので。

仲介会社は商品を販売する上で必要な営業ツールも充実しています。これは製品の詳細がわかるパンフレットがないのと

同じことです。家電量販店に行けばそれぞれの商品カタログがそろっているのが当たり前ですが、仲介会社ではモノクロ図面や断片的な情報を基に作成した資料しかないので。

あなたの物件の家賃が仮に10万円だとします。その物件に入居者が24ヶ月住み続けてもらうとすると、240万円の商品を検討してもらっているのと同じことです。車に置き換えて考えてみましょう。240万円あつたらそこそこのグレードの中型車が購入できます。自動車ディーラーに行つたらパンフレットやDVD等多くの資料がもらえます。もしあなたがディーラーに行つて、モノクロの資料で説明され、何の資料も

もらえなかつたらどうでしょうか。もしかしたら怒るかもしれません。

あるいはあなたが自動車ディーラーの営業マンで乏しい資料で営業しなければならないとしたら、車は売れるでしょうか。

他の商材と比較すると、仲介会社のスタッフはあまりにも苦

んでいることに気づいていただけたでしょうか。※次号へ続く

リーシング・マネジメント・コンサルティング

齊藤晃一 取締役副社長兼CMO

Profile

コンサルティング会社で、大手飲料メーカー、大手製薬会社をはじめとするダイレクトマーケティング事業の新規参入戦略および実行支援を多数経験。その後、(株)ウェブクルー(東証マザーズ8767)で新規事業企画室長として新規事業の立ち上げ、M&A等を経験。現在は不動産ファンドやJ-REITの空室対策コンサルティングに携わる。著書に「本気で満室稼働を考える人だけが読む本」。

URL : <http://www.lmc-c.co.jp/>

